

武江年表

扶

別記

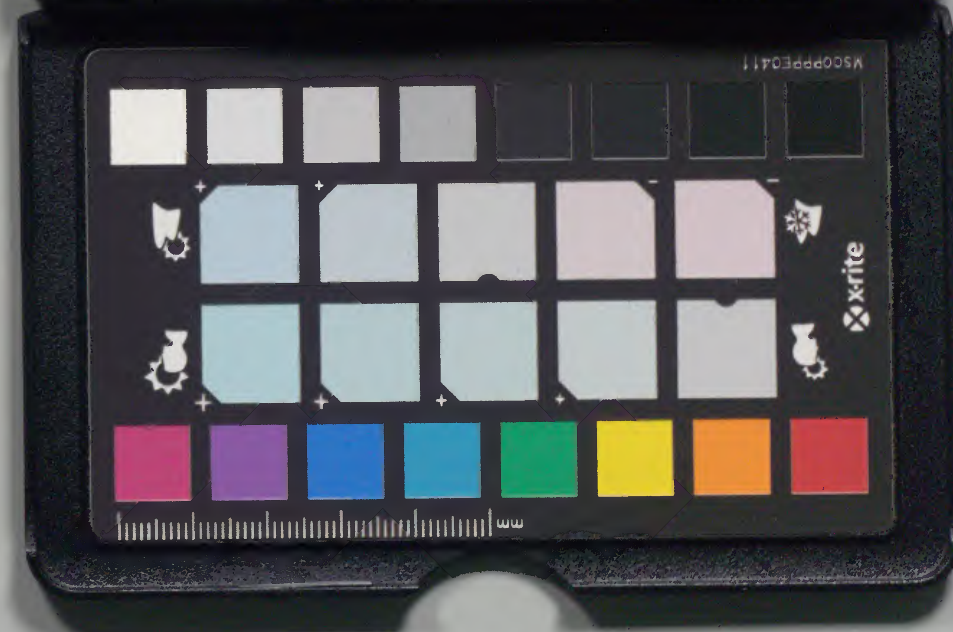
		二	和
		一	書
		九	門
		三	
		三	
九	三	三	類
冊	架	函	號

庫	文	閣	內
一		二	和
四		一	
一		九	書
兩		三	
五	九	三	
架	冊	號	類

內閣文庫	
番號	和 21933
冊數	9 (6)
函號	141 88

武藏

共八



武江年表卷之二

御印

明和

御印

六月

御印

三月十日より湯島大佛堂開帳 ○十日より新嘉寺八幡宮より東北野社

自不務齋行寺像本地親世寺開帳 ○淡草祇念寺より之三及明顯寺柳

洲堂聖徳寺より之三佛本開帳 ○四月朔日より麻布善福寺より之越後

寺田井波菴瑞泉寺親書上人宝物本詳せしむ ○月日より深川吉信寺

少々興明會法大用密寺親述如來寺開帳 ○茅場町茶師如來開帳

○深川清右衛門少々身延山興院祖師鬼子母神開帳 ○四月十二日より

深川大佛殿進所より二月堂親世寺并宝物開帳 ○永代寺より之瑞念

寺并燭磨王本地梵宗開帳 ○五月より八月迄諸國大旱

近五箇不出つ尺
印災も虫荒劣也

武江年表卷之二

一

倭小虫をカチと云麦稗由貴一野茶物等の價よりまゝ
閏月并赤川の鯛三子喉余死海に苦悩と云の如き事ありて死す

○麻布永収光照る孫院如來開帳 ○六月十九日八月中旬返日向院にて差

峨清涼寺釈迦如來開帳 ○同日より一ツ目八幡宮に旅不きて総明布籠在り

天軍帳 ○青山若光とありて孫余枚本と親世と有軍帳 ○今年撰録の釈迦

開帳ありしより思ひわきて山岳明阿弥若親迦文佛内傳考一卷編輯

何り字本ありて行る ○閏六月朔日より正院より十王堂にて武州松山親と

ち毘沙門天軍帳 ○七月廿八日夜乾の空ありて丹のごとく又幡雲出る

○八月十日より日向院にて京都伏見東福寺塔次海慈院毘沙門天開

帳 ○八月十一日夜靈巖寺本堂焼亡 ○八月廿一日日向院にて高野山十

遍名号孫院如來開帳 ○八月より築地本願寺にて甲及轟村若福寺於河

坊聖徳太子開帳 ○十一月市谷長延寺にて雲州釈迦嶽雲右清門大関と

成り雷電為右歩一色一夜のお撲身なり ○十一月廿日官匠望月之英卒 藤門山人と号

百里の男あり ○以冬大多く死す ○十月廿六日書家小笠原一甫卒 名長和棟理在り牛込大信と小笠原

明和八年 辛卯

正月廿日麻布より芝辺迄焼亡 ○正月廿日儒師宮城龍門卒 名維翰 玄田玄園と小笠原

○正月廿八日書家上田素鏡卒 号陸古堂 浅草永見と小笠原 ○二月 日不 村松町より出火

由辺迄焼亡浅草新義前助真先稻荷の辺より ○二月十日より上野

清水堂千手親世と有開帳 ○同廿日より壬子稻荷助神開帳 ○三月初旬より

伊勢系宮流形 所謂お伊勢よりありて或肉を水を垢より身不潔と云ふ ○三月八日より

本下川茶師如來開帳 ○同五日より新義前花植院ありて武勅比企郡若光

九番 親世と有 深明王開帳 ○同十一日より日向院にて明曆大火焼死弱

死車に万日回向修行 ○同十五日より下谷五条天神并天満宮開帳 ○同廿日

武江年表卷之六

好と云

此年間記事

△儒家 宇佐美惠助備水 如崎才茂海 井上文平金 井上保茂東 井上仲

岡井郡太史嶽 △詩文 龍弥八雀 細井甚三郎平 宮嶽三石明 須知文平

葛城山人 千葉茂右衛門其 三浦左吉衛瓶 大内忠右史熊 △書家 三井孫左清

和澤田文二郎東 松下君嶽鳥 辰代左九郎師 伊友善茂益通 舘陵山人

小河保壽 細井九皋 △和哥 加茂善洲 藤原守方 佐荷田清風 蒼生女

稻生魚彦 △物産 田村元権 平賀旭溪 後後梨妻 △画家 狩野棠川院

鈴木鄰松 吉田紫香 佐藤嵩之 三浦花信 諸葛監文藝家といふ名をとり門人に對せしむ

△俳諧 蓼太 存義 買明 治山 田社 宝馬 露十 △浮世繪師 藤川春章門人致多

一筆 舟文 洞 磯田 湖 祐 柳文 朝小 松 益 百 寇 木 乃

○三井親和が篆書を好むと云ふ親和深と篆字のなまれを形を漆物と云ふ事あり又婦女の衣類表へ垂化ふて裏小樽杯を付てと云ふ○細身の短髪を好む

武家も細身刀を用いしゆ ○土平といふ館賣もある谷中笠藤編若

境内の茶室幾處のわせん浅草奥山銀杏木の下揚枝店柳屋のわん

美女の穿えあり春依の繪画より ○曲亭云明和二年の以唐山の彩色摺ふあり

て板本師金六といふりの板摺甚ふくこゝ板本へ見當を付る事を工吏し始て

四不遍の彩色摺を製し出せし程あり和とて摺出の事とありぬと云

蜀山翁云此説非之是尚や背る彩色摺の延享元年 ○明和二年の以大坂人形を吉田

江名屋吉右衛門工史と始とすといふ

文三郎同文吾松りりし彼ら風をよめりて羽物の文再を好むるが

福多く短く成りり ○琴曲生田檢校あり ○富士田楓江萩江露友

ホダ長唄新内節降極陽あり ○二挺鼓を好む ○朝鮮の弘慶子といふ某

賣市街とある

栴色袴袖衣敷巾の子差の
巻まりと須うづる

○大晦日の夜扇賣の声か

牛一うらうらぶ此時代より及骨止まらう
○曳尾菴云明和安永の以嵐除猫
の繪かんとて市中と歩ゆら
又蜀山人の語一言
み天の寛政の以
白仙といふ所の年字あつた坊主は出羽の秋田に猫の雲あり紙のりりて猫と虎とを
画きて社に一枚の巻網をとり自ら猫うたと稱し、猫と虎とを画く筆を拵て都下を
うれあさき猫ちかめといひ、いへんを画しむれば僅の價をえりて画くその猫は虎を
避しといふ云くとありりれり先ある 未詳

○平賀旭溪紅毛の工レキテルを工ま一日奉りて製し始む

安永元年壬辰 十月廿五日改元

二月初午儀若く西宮稻荷社樂を後と
午後 休む ○二月廿八日江戸天火坤より良

一飛入○二月廿九日乾より西南の風烈しく土烟火を覆ひ日光眩然より午の刻

目黒行人坂大田寺より出火して永壽町通より白金左町麻布辺一系
若福の
八本堂

開山堂 三田新網町辺裡宛版倉市云清町あざれ靈南坂一筋ハ為久保橋回
のころ

慶が冥虎河門日比谷はつる場先河門橋田はつ和田倉はつ常盤橋河門

神田橋河門木焼七右道筋はつ内徳彦藩邸灰燈とあつ日本橋南ハ通

三田町目西側元四日市町並町西河岩辺より南傳る町中橋を限り上橋

町追小ハ本町石町辺東西林田町武家方ハ一系小川町入口駿河町

昌平橋筋建揚河門外林田町社聖堂湯橋天神社日不を迄

一系上野仁王門山王社下寺不涉車坂下谷辺廣小路河徒町三味線堀坂

中入谷令松篤橋小塚原吉原町子住大橋向掃部宿後芝筋ハ下谷

廣徳寺通新堀阿部川町寺越辺本取寺河堂儀草寺
本堂 妙の傳法

院并寺中馬道田町新寺越橋場少郎又同日寺六時本ハ丸山田町

より出火して森川宿追分約込白山傾城が窪入口追うる丸繩子土物店

千太本入口根津谷中感意寺草坂根岩少郎
翌晦日未刻 以示るを止る 又翌晦日巳

刻小風ふり或东风ニ成常盤橋外の大火傳る所辺馬喰町二丁目迄濱町辺堺町葺屋町為産の芝居探芝居四座小細町大坂町田所所經波町住吉町辺伊勢町駿河町宝町色日中橋中橋系橋ふりる未刻双方の火然り時大雨降風然るは火より六里幅一里大小名藩邸寺院神社町屋の類夥しく焼死怪家人更救を知らず

上野仁王門の時再度の焼亡之感あるを言はばもいふに燒る麻布一巾松やけ之類は裁勢より

○吉原町仮宅今戸橋場山の宿為本條川八幡寺佃丁二出る若町の銜艶郎由仲丁の仮宅へ出る○大火後仍入坂大田寺再建せしもの故ある人五百羅漢の石像を造立せり堂中菴蓼太横山町は住より一火火より逃れし條川右岸要津中の菴より一「俳諧せよ」とて青兒折のふといふをさへんをみきり一人は句をひて百韻をみて夜を明せしとぞ

○三月又日より不恩矣と内より系出如堂然る稲荷明神園帳

○四月十日より牛の所前玉子控現園帳○四月十九日若方又火西より東北へ飛ぶ○四月八日より小日向大日坂妙豆院大日如來園帳○魚籃觀世音園帳○四月より五月迄諸必疫癘流行○四月日谷内新宿宿院舎

再興所免あり甲坊道中人馬燒立の事とありて禁置せり○大川中洲妙地築立成徳以町屋の安永四年不登々全く成まり

宝地ハ新大橋より南の方酒井家白須家菅沼家ハ葺屋通り

川岸九三丁余坪敷九千六百七十七坪余葺屋九十二軒あり中四季店と云ハ水東の隅の料理屋を殊々大度之とて湯屋ハ三軒あり中屋の家敷初々ハ安永四年より天明八年迄十二年の間に中洲の之を焼くは本橋前後の地を焼くありハ寛政己未元のことと朱樂菱江が焼の大檢陸院と云る事低中洲の之を云々記せり

○七月六日画人佐脇嵩之卒 六十六名及賢林甚茂儀甚松松中林名院は葺屋初代英一際晩年の門人あり之始ハ一水と云り嵩谷これ門之

○八月朔日二日大風而家屋を吹潰る尚夷於燒の小屋吹倒るる事あり

○八月五日儒師村士淡亦卒 名宗雄林林在事約迄大田寺の事と

○八月金彫

○八月森英昌卒 八才

○八月十七日大風而再度小屋を覆す本不深川出水床上述する大船永代橋を損壊○八月廿七日上依左系少進光芳卒 七才

○九月式朱張通用始る○十一月朔日敷九町以上野所本坊失火

○比冬初唐といふ人日暮里舟敷松之碑を建小海入江貞文を撰る

○再校増補江戸砂子梓乃 沾涼ガ男雁足軒門人 冬涉校訂以

安永二年癸巳 二月閏

二月十五日儒師深見有隣卒 祿彰善傳又冬去去侍の二男 上野獲国院ニ葬以 ○三月廿一日平島

長命寺弁天天閣帳 ○三月より田向院境内一言親吉閣帳 ○同寺佛度申堂

青面金剛閣帳 ○三月十日上野凌雲院失火 ○四月より洲本弁天天閣帳

○同月より先福為神閣帳 ○四月午の日慈地小田原町浪除稻荷祭

町々出練拍亦必以生括体む ○三月末より夜病者人々多死 江戸中

三月より青まを九十九万人 所救とて朝鮮人參多 中いり ○四月よりお忍江の橋

上ノ宮弁天天閣帳江ノ橋より赤清多 ○五月醫學館再建徳醫師より年々

寄附銀乃 ○五月十九日儒師坪井青城卒 名教求 浪草正覚亦葬以 ○葛西東湯

寺日限親世吉閣帳 在りて半途ニ ○七月朔日より湯島社地を攝洲

四天王寺聖徳太子閣帳 六月廿六日のたきの時 迷の旗多く物 ○冬嚴寒川々の氷厚く通船自由

あぶらゆきて諸物の價甚貴うりこれよりて正月門飾の松竹高ふるあり

名ふりあふふ川も水閑て遊船絶一日も有し由後ニ草ふり

○十二月朔日神田町神社仮殿にて奈礼の式執り 高年奈礼の年あり一々去冬災 雁り本社内運営いも成らば

産子の町々わり物もあふりなをる夜今日仮殿にて奈礼の式あり ○安永の始の以綿の実を

生後安永六年遠辰辰より執り以月八亥年九月奉参りあり ○墓所一覽小画人宋紫石今も終り奈本形中極本も葬

る苦妻を食して死するといふ ○由記せり抱ふ小嚴島扁額縮本又安永七年戊戌五月

同 三年甲午

正月廿日狩野洞窟島信卒 ○二月八日より川口善光寺法院如來再修

○三月廿日檜町より出火大風吹て救所難焼すと云 ○三月十日中納帳

千年忌 ○三月十八日建部涼袋卒 五十六才牛島弘福寺に葬を 画并俳諧を著し以寒葉齋と号以

○同日より魚藍親世音開帳○四月朔日より六月廿一日迄大師河原年間
 寺弘法大師中微福存回向院にて開帳○四月四日より六月八日迄本所
 表町本寺より祖師開帳○四月八日より五月十八日迄本下川某師如來開帳
 ○永代寺内丈六親世音腰鏡佛開帳○四月十八日より六月八日迄淺草寺
 親世音開帳○西門於河對面所にて信助植料郡白鳥山康樂寺園光大師
 淨影觀音上人本像開帳○二本枝廣岳院にて仙臺住生寺寶牛像
 度田光大師開帳○六所鉢院末本親世音開帳西ヶ原 昌林寺○同三番西ヶ原
 垂量寺親世音開帳○四月十八日より六月八日迄淺草寺内日音院
 兩室童子松壽院おろろ弁才天獲鏡像開帳○淺草池の妙寺より弁
 才天開帳○五月十六日より龜戸天満宮開帳○六月六日大雷世七ヶ所小
 落る○六月廿二日大風雨家屋を損し樹木を倒し

○小石川傳通院山内福聚院大恩天女の以より江戸中一構中を結んで
 甲子の集積今年より始る○七月朔日より獲國寺本寺如來佛親世音
 開帳○同日より小石川大塚大慈寺親世音開帳○七月十音古筆了延卒
七十 ○八月十音市谷八幡宮祭礼神樂を演じ一竿練物おもしろ○八月降り
一才 活元祖霧賀新内死二十 ○九月朔日より市谷八幡宮内某の末福存開
 帳○九月醫學教講堂成就是○九月廿日土山聖天宮祭礼神樂を演
 じ産子の町より出し練物おもしろ後休む○九月廿日小石川白山権現
 祭礼神樂を演じ産子の町より出し練物おもしろ○九月深川漆殘座止
 ○大川橋始り掛る俗ふ吾妻 橋といふ 十月十七日降り始り○十月廿二日儒師鶴孟一卒左膳
伊豆子長徳 ○画人鳥山石蕪豊房智山彦といふ繪本二巻せりて其の二キボカ
 シの彩色摺せし文せしは本を始とては安房貞翁の語なり石蕪の周信の門人
 あり板刻の画本也

○七月より市谷折町寺徳院親連を関帳○八月十三日より晦日まで
 深川八幡宮関帳○八月廿二日より護國寺山内より後又二十日昔親世音
 不務関帳○八月茅場町茶沙境内より及菽野法界より朝日如来関帳○九月
 朔日より音羽町九丁目田中八幡宮関帳○同日より廿日と飯田町世徳稻
 为天満宮関帳○九月十九日牛込赤城明神関帳○投壺の技行る末が
研尋しそ法と傳ふ投壺指揮投壺文勢圖解不傳行せり ○紀伊守在文丸米の山が実子
 文右造の築地飯田町に住し終る者よりるが能治を好む龜山と号し後其孫
 襲しる明西といふ今年六十歳才ふく終る紀文が子孫 ○十二月廿二日儒師
 松蔭觀海卒名維時孫才孫 麻布天宮より小葬 ○薩初よりありし齋猪ヤマアラシといふ数津田村
 屋町田村元雄の家より左に於て後淺草の境内にて見世物と成猪の大サを脊
 小若丸骨救百本ありし時ハ此骨運立く思ふべき事とあり

安永五年丙申

正月五日儒師村士一敏卒名宗章号玉水孫行孫 四十分約近大田より小葬 ○正月廿八日より折高法
 性寺妙見宮関帳○二月風邪流行○三月末より秋の路を麻疹流行
 人多く死す○三月廿二日物産家田村元雄卒名元臺法華 小葬 ○四月廿八日詩
 人大内熊耳卒八十分名承終孫忠孝支下谷廣植より小葬 葬以男を葉室といふ ○五月六日より八月八日迄回
 向院より伊勢白子親善より子安親世を関帳○五月朔日より矢口新
 田の祿奉地十一面親世を関帳○同日より永代を六ヶ羽田并才天
 関帳○七月終日より永代を飛来八幡宮関帳○七月廿九日萩生道濟卒七十日六 号金谷
祖孫の 男あり ○八月九日儒師宇佐美瀧水卒名惠字子迪孫助四谷 南より戒りより小葬 ○柳橋若井
 登と云船相の妻一彦小三女を生名を梅松さくといふは橋の編語ありといふも 七十一歳より小作りて街にありといふとあり
 ○品川の辺に石地藏燈を廣む声響ゆると云皆人坐小作り地蔵号の

為覆を放しつる小後の方へ蜂の巣ありて多くの蜂の声續徑の様は
乞し家夜小出 ○九月十二日東叡山瑠璃殿并法堂河修復新始

○十月廿七日書家伊豆益道平名子仍 林若花 坂本甚志院小舞以 ○十二月十日夜二更のころ

新座那東明と吹上親世寺本堂焼亡本寺火中不埋れ ○十二月廿三日儒師

伊东勘海卒名晃 浅草 万庵小舞以

安永六年丁酉

正月廿一日曉青山河子大工町焼 ○浅草報恩寺親書上人持物の付室を

焼せむ ○二月廿日より六月朔日まで浅草寺親世寺并境内并仏熱開

帳あり開基より千百年ふふふと云熊人寺町百菴の草記より浅草妙善院の境内ふ山長助阿先生位よりと務以焼石

開帳ありと拜以はあせ中谷と云今中田といふ

石枕あり兒男のうねりみも今ある田の里と云きし 百菴

廿二 廿三日成りしつるつるいも枕あり兒男のうねりみも今ある田の里 明阿

○二月廿五日より湯宮乙浦宮本社建立成就す付開帳 ○三月目白杉長

谷寺境内親世寺開帳 ○浅草唯念寺祇念寺溜池澄泉寺と七日

下野高田天辨一光之寺佛开帳 ○四月朔日より回向院岡山護念仏傳中

千辨佛他 萬ん 阿弥院并東境内茶室亦才天一言親世寺開帳 ○月日より青山

善光寺一光之寺延院仏開帳 ○渋谷長谷寺二丈六尺親世寺後藤の像并

外古佛靈宝開帳 ○四月より下谷寺町蓮城寺祖師日親上人 開帳 ○橋場

不動院不動尊良兼 開帳 ○四月八日より龜戸社内花園明神開帳 ○中野法

仙寺不動尊开帳 ○芝金松正傳ちあて牛込寺町久成寺船寺祖師開帳

○下谷五茶天神又備宮開帳 ○菅岩山田福ちあて出羽湯殿山黄金堂玄良

坊依久間ちあて大日如來開帳 ○魏町平河又社内之小浮淡島明社虚空院

弁宗信 ○六月より本丸山島若寺祖師開帳 ○六月十日儒師福垣長章卒 号白

林蔵右衛門白山 号白 ○夏より伊豆大島焼始り南海一火燄出る不川沖を夜く火光天く

映する 号白 ○八月十五日日向院より江及粟津義仲と本若義仲が守本

寺 号白 日休院如來芭蕉翁像開帳 ○八月廿五日書家若山小湊卒 名尚賢稱平助

○北秋魚鱒ありわが小田原の海中へ大魚来る其丈は五十石横八九石脊中は蛸

の類有る名をセウガサノといひりある大船をも覆ひたりりて漁人

たれく海へ出るあり ○十月日未不動を内を武島多摩郡那谷保又

津開帳 別号 ○十月甲辰身延山七面宮より出火系請の者怪家人をく

江よりも怒るを運みある者多く九死一生の祥をて為府せしむり 号白

安永七年戊戌 七月間 二月朔日より後堂本法より依渡山塚系根本寺祖師開帳 ○二月十二日

俄に大風起り本石町より出火靈巖高深川連延焼 ○小幡町子代田

稻原若麻靈宝殿より出火を拜せむ ○浅野家の義士堀部安玄傳が後

家 縁祖とのいし計りて焼せざる内 羅整へて妙海と号し一庵戸村の庵室に居

たり ま切板を十六才の時あり 老後泉岳寺の門前住して義士の善場を吊ひ居り 号白

今 号白 年二月廿九日小幡より終れり ○三月三日儒師南宮太湫卒 名岳

牛島弘福 号白 ○三月廿九日より松町平川天満宮開帳 ○鳥森稻原の林喜日

明祚 別号 開帳 ○三月上野清水堂親世若本堂造立あり開帳

○三田美日明祚開帳 ○お横身初の日教昔々晴天八日成り今年三月廿八

日より深川八幡宮境内においしく身初ありより十日と成り由我衣よ

名をさる ○四月朔日より牛込田福より若本満寺祖師開帳

○四月より後園寺より甲辰大聖院不動尊 号白 開帳 新羅三年像

○六月朔日八幡宮前八幡宮之致及富士裾野等八幡宮者我兄弟の
像 荒人神 玉波明神 虎山守 開帳 ○月日より河津菰前中央より大日如來開帳

○同日より同七月十七日追回白院より信明善光寺跡院如來開帳 氏時開帳

○六月十六日俳人小栗百万平 西本形寺中 ○六月廿二日より多田茶師内小
武及十茶村善光寺正親世善光智法印像開扉 ○高福如來よりあく

常陸國麻島郡子生社宮より赤又又開帳 ○七月朔日より芝野宮
社地より千住勝専寺誓大明神開帳 ○牛込七軒町多門院之身毘沙

門又開帳 ○三田寺町慈眼寺系引正親世善 中乃娘蓮宗より 開帳

○七月朔日より湯島社地より武州埼玉郡野島地蔵寺開帳 澤山より

○七月四日書家山本榮海平 名智光祿元多集 ○七月八日小割下水花巖

○七月十六日より滝草清水より千手觀世善光寺建立立成

○七月廿八日より滝草寺中智光院より信如善光寺越村住生より新置

院新遷如來開帳 ○八月廿五日龜戸天満宮祭禮社樂形列古例の如く又

産子町より練物木出で飯火方あり 中後

○七月廿八日儒師鹿島探春卒 名守房号東郭也

安永八年己亥

正月十四日夜青山慈野権現別當降性院自火 ○二月板津控現境内

○七月廿八日儒師鹿島探春卒 名守房号東郭也

○七月廿八日儒師鹿島探春卒 西又保天徳寺小善人

○七月廿八日儒師鹿島探春卒

○七月廿八日儒師鹿島探春卒

○七月廿八日儒師鹿島探春卒

○七月廿八日儒師鹿島探春卒

○七月廿八日儒師鹿島探春卒

○七月廿八日儒師鹿島探春卒

○七月廿八日儒師鹿島探春卒

○七月廿八日儒師鹿島探春卒

○七月廿八日儒師鹿島探春卒

○七月廿八日儒師鹿島探春卒

ゆゑに所縁所に孝地親世吉開帳 ○川崎年間寺厄除弘法大師奉
賞修彼成徳小舟開帳 ○

上土山聖天宮西の藤小舟の池あり池中小石投げ築き
と号し又曰く余の老嫗の生像あり兒童石を投げ築き
小横返りといひ傳へり一年火災不罹り池も埋と石像も土中不埋れ四十年未初る人あり
今年の夏下総八日市場の百姓平山忠左衛門といふ所の池に不承りい所を借りて酒樓
と營み池を改め三条小橋を築し三橋亭と号す又藤の女小橋を織りて客
ふり守りしとてこの時々の石像を掘りしとて強く骨をとりしと山と不移りて今在
りて余衣婆の像あり

○四月朔日二日大寒一日大雷降 ○四月八日より

淡草本法寺より新曾妙顯寺祖師新迹如來開帳 ○月日より回向院

より伊勢朝熊岳金剛院より虚空菩薩菩薩開帳 ○押上最教寺蒙
古退治の旗曼荼羅を拜せしむ ○下谷徳大寺摩利支天開帳

○四月八日より淡草極寺 西尾 徳寺 徳野本地延地如來 開山親智國師 供撰本寺 開帳

○四月より七月迄百日のちわ明江の徳本宮岩屋無欠天開帳 江原系信造

○目黒不動寺内之信及水内郡石堂村萱堂寂照房作地如來 別考 開帳

○菅岩山内より淡草山虚空菩薩并年中辰鬼社堂地蔵并開帳 別考 延命寺

○五月十日より廿九日迄江船菰子勸進寺より南於東寺二日寺親世吉并開帳

○六月八日より芽場町茶師内より武洲下新座村茶師寺吹上親世吉開帳

○湯島石神社より多摩郡谷古田領新里徳性寺茶師如來不動寺の石

帳 ○八月より深川八幡宮本地愛深明王開帳 ○小石川毎量院小野

の小町の墓とを立和州より移しし由今今年小町の丸百を忌み由り八月八日

法了修め 小町の祥為三月 某の日ありといふ ○八月廿日大風雨洪水和泉橋落日白水

道橋極の落せり程あり 小日向水乃下辺 住来水寺極あり ○薩加彦品川の前邸 琉球寺の

筆を起し極する老人とれを珍賞す 世不並ふ 筆と稱し ○九月二日俳人梅野菴五建平

七年云々小石川 一多より書し ○九月より十二月迄小細町より甚左衛門町一落りしとこれ極を

壊ちしとこの極を埋りし ○九月十五日牛河原寺礼社堂を落し童子

町より出たり物せしむるがは後中絶也○去年暑より保豆大
焼出夜毎西南の勢くは戸近も多流れり○十月朔日夜より
二日追灰雪の如く降る大隅國様高焼より一かき灰は戸近も焼く

り○十月廿三日佛人墓家丸簾卒 六千ふきの山下 啓運ち小葬人 ○葛西柴又村野野

九世日 今年堂宇を修理せし本堂の棟上より今の帝釈天の板本

致の時 今更なる所へて先づ失ひし本堂のこの日修申ふ高う

○今年 三日 三日 三日 書家鳥石葛原系初み於て卒 八千文字若岳号白玉坊 廣傳の門人なり

○十二月十八日平賀雄漢卒 名國倫松原内号風来山人松崎徳泉ち小葬 一とふ安永九子年二月とゆ云

安永九年庚子

正月八日書家後山散謙卒 名秀盛後山流の祖人 下谷名福ち小葬 ○二月十五日書家山本昌

信卒 孫菊治三回 孫ある小葬 ○三月乃基井千七十年供養六阿弥院如來子孫を焼

回向○二月朔日より湯島社地より上野世良田感徳山惣持ち十一面

觀世音園帳○麻布名福ち冠縁聖徳太子園帳觀音上人孝八字名

号を詳せむ○千騎う谷八幡宮祓功皇后喜日明神園帳○三月朔日

市谷柳所先徳院子の觀世音園帳○同日より池の妙寺ち祖師園帳

○三月十音より青山善光寺より攝津難波堀江一光寺佛園帳 和光寺

○三月十六日永代寺より葛飾郡吉川延命寺地蔵寺園帳○四月朔日より

回向院より目黒祐下寺阿弥院如來社又文徳正寺新園帳○四月朔日浅

草西福寺毎量壽仏 徳什佛 觀世音 園帳○四月朔日より極樂水光系より元木某師

園帳○四月十音より飛有村祥雲寺聖觀世音并深川寺町 おれんト 為茲ちより

園帳○目白不動寺園帳○浅草又五堵西の橋始り撰る○四月十六日より

羅漢寺三市堂建立八月の以成就 秋又坂東 西國の字 百觀世音安座供養あり 乃俗某法 衆一

○四月房州南浦異國船漂着南条船名廿八号七十八人云々

○五月高田室名お石を獲て富士山を築今月成終す ○或書よ六月

閑運星おるとり ○六月十日書家篠田定考卒 号明浦 丸山本抄

○六月廿四日儒師松宮親山卒 名俊仍孫主鈴之源光隆院 号明浦 丸山本抄

廿六日より江戸近在利根川荒川戸田川隈水村人家を流し永代橋焚

橋落る助船を以て難を救せらる七月より米價貴し ○七月朔日より回白

院を丹後天橋立渡わたる聖親世々對王丸為代地荒る困憐 ○九月十

五日儒師林東溟卒 名義卿 年高 弘福寺小華以

石橋門今年六月九方より卒去り ○武藏志料字本成 明形君の著輯 於今年正月

辭世 百と名のあそびのうらみ思ふ處のあそびをさし 撰成し文中ふらそり江戸の居居故事人物お各都をふれり但し全篇の物といふは又後 購し作の紫一筆の後編とをあらはせり 紫のあそびと歌せし去り 写本とせせし稀あり

此年間に記事

堀の内妙法寺祖師追日赤指人群集以 ○安永始の以王子駒込谷中辺西玉

写記世をね不巡りせ定む ○江戸小二十五番所田光大師巡拜祈せ定む 愚編 米事

洋之 ○安永十年俳人提亭北探り種おと云向集ふ載り不の是時代のちり物高物

目録左小畧記之 ▲菓子屋 下谷廣小路合以本町後月名同幸のちや 大佛

餅 浅草並木 ▲輕焼 惣茶屋 下谷車坂 茗荷屋 ▲蕎麥切 乃乃正並形山並形若木約親 浅草乃好庵堀所福山并高松やう雜司合菰の内

▲船切 麹町 ▲揚枝茶屋 五倍子酒中花 浅草堀内 料理茶屋 浅草堀内 日

▲生簀黃鯉 須崎太倉孫比布 ▲藪の焼 堀内 隅田川諸白 並木 ▲藪 伊四子

▲所所おに 玉屋 ▲鯖 中々 ▲蕎麥切豆腐 木枕 ▲あふ雪あふ茶 田向の人等 車及下巻や

▲黄燄 浅草堀内 ▲浅草燄 堀内 ▲いく上崎 此外何中し何り

末く花名の名不釣の名所をも記せり ○相模取谷風梳之助小野川喜

三邦親近嶽雲古歩の歩行 安永の以りて三津川系代り ○狂哥師 平枝東也

蜀山人手柄固持唐衣襦袢 ○軍談師馬谷 若一祐石并魯石行

○浮世繪柄者居清長 粧を柄繪木更信の以より以骨巧小成 古九堂更信

意川美町 倉橋 哥川豊春 一竜 あり ○能人相露菴者醉四時游観録

といふ面柄をあるは江戸花暦是小始る ○浅草寺境内石地蔵者

因果地蔵 流行之後奥山三途川境縁初秋の若多 ○先稲荷境内茶

店の婆々油揚を揚ぐおいとくといふ時靴出て合ふ皆人見を見す ○婦女の

髪さし始る ○箱入温石始る ○裸人形腰折れといふりの造り始む

再按る
小松玄
文政四
年十月
終れり
小石川
慈照院
小藤

○小石川傳通院大慈を中り如くは門前の表町前小辰已屋惣を掃といふりの田楽茶販の
店を出ては行々この惣を掃生質強記をせぬ弱きを助す願ふ快事ありあり若年よ
里津屋中うの惣似せしは化通とて山王社田の道の惣れも出て踊る或は女のわらわら
あり小茶女となり巫女の惣れをてとてや或は若廣藩中の惣ちのあふ強てはれりきと合衆ハ
ありれともうは文化の半の以津田おれの時七千依大あく出のよおをうと踊りておのれ由者
より中七十金ありと終り 南畝先生文化元甲子秋長崎一趣りれ時高船の清人程赤城にお

つむがかの石色巻の巻と丸を二つ小割る如く面白極なりといふはれりとど石色巻が
函條小南畝先生の賛あり おまわりと林樂の半は辰巳屋にわかれ本娘の花ささせ前

○安永中島山檢校遊里小趣遊女漱川を身支一巨万の金銀を費せり

は檢校法人小金銀を貸してその利を金貸り ○山王神田おれの時花万度せり

ける由是つ小藤料小ませられとせり ○安永中越後の巻をて女世といふ
るは紙止りれくは地車を添へて身万度と号し ○大女のカサハニとせおあおてり

天明元年 辛丑 四月十二日改元 五月圓

正月八日新枝木町和國餅の店より出火あ芝居その外敷焼 雲巖傳小

いり ○二月朔日より浅草妙善よりあは縁念名越谷長橋より祖師屋様

○二月朔日浅草瑞穂元祖常磐津文字太夫死 庚尾 ○二月十五日

より回向院より中巻小金 善化宗 一月寺親近如來不動尊の因縁 尺八笛三葉

あり 三月十日より十三日と多田中より内巻 信州善光寺回向如來淨宗文内

少あり ○月十日より十八日と沼田築命ちよま 拜 ○三月十八日浅草三社権現祭礼久々終り

町々（中略）○四月八日より回向院より山嶽（中略）二宮院跡（中略）叙述

春光寺開帳○淡草本流より下総國平賀寺祖師開帳○茅場町

茶師内より和久大峯寺の河原才大開帳○古川茶師開帳（祖師開帳）

○敷橋宗源寺より甲斐國郡内小沢村西方より十一面觀世音開帳（敷橋）

○目白不動寺境内より武藏越中社住吉和方三社開帳（珠呂大宮司）

○六月五日淡草寺より六天系礼拝堂より練物出る○六月十四日儒師井上宗

源（名速稱形方事）○六月十八日四谷天王橋荷系礼拝堂より練物

出る○秋雲系洪水江戸橋・橋次○七月初日より回向院より奥明外濱百津

寺岩中山三社本塔跡跡如來觀世音并茶師如來開帳○同日より淡草寺

泉寺より武蔵八王子本寺より祖師開帳○四谷南寺町武成院塩踏觀

世芳開帳○東叡山護國院常念佛堂五方日回向○下谷徳寺より中

山法花經寺祖師開帳○七月初日湯島社地より小野社境内安堂文

満宮開帳○八月より淡草寺荒沢不動寺開帳○九月晦日子刻告原伏

見町（一本の寺）より出火一町の除焼る世安八幡宅あり○十月十三日日蓮

上人五百年忌法花宗寺院法堂を設く○十月十四日日蓮長泉院開

基徳門律師寂（薛普寂号及光）○十月廿日より十一月廿日追淡草寺觀世音

開帳○隅田川西岸一覽二巻板行成（軸物を刊行するもの）

三月十日より永代寺老朽る八幡宮本祀也深明五教於公啓觀世音

開帳（以時境内一寺）巫女のおすととりや、
○三月七日二井親和亭（八十三大号菴湖縁縁縁）

深川寺丁（増林寺）○三月十日より淡草寺念佛堂より足塚谷汲華嚴寺十一面觀世音

三月十日より永代寺老朽る八幡宮本祀也深明五教於公啓觀世音

開帳 ○同日より日向院にて奥州金花山各才天開帳 ○芝倉坂正傳寺老中山
 智泉院鬼子母神開帳 ○茅場町茶師内之小津隆高助神開帳 ○三月廿二日
 金彫工尾橋道政卒 孫孫を妻 ○三月廿九日儒師片山兼山卒 名世璠孫父を孫
五十三三苗抄稿
 小華 ○四月三日儒師後後芝山卒 六十才孫孫を孫
名世物 ○五月四日細井九皋卒 名如文
孫孫
 一男以維乃人廣海の男 一男以維乃人廣海の男 ○六月三日戲作若伊屋可矣卒 比谷理性子
孫孫孫孫 ○六月天文
 屋敷半込茶店より浅草へ移る 半込のあり神田佐久
町の小はあり ○七月朔日より日向院
 まで武洲比企郡三保谷村養牛院子孫親世寺 弘法大師傳
乃權本号 開帳
 ○七月十四日夜九時十音初大地震然人戸外へ出るとの男少一の地震ハ算(分)に
 以てお及火山の辺との外より屋上より石を落し
 山留て怒ろーろー又小田来りておろしとそ
 上及敏林光明寺 延喜四年利根川より
出見光光寺同神 阿弥陀如来開帳 ○十月廿日俳人弓場存
 義卒 号有世考浅草
松形小華 ○十一月廿九日俳人谷口樓川卒 卒形中
小華 ○今年ハ獲ふ

山角七切少丸西玉世三所写親寺堂建立 江戸中勅化を慕りて是を嘗む文政より少
破壊小及ひて今に於て之 惜ひ

天明三年癸卯

正月廿六日浪卷の狂言師芙蓉花江戸小卒 卒の發信云傳と云
浅草西福小華 ○二月二日俳人
 二世沾涼卒 八十五才傳上中
昌泉院小華 ○二月二日大地震 ○二月より吉妻森吾妻權
 現開帳 ○二月廿日より龜戸葛門院正親世寺開帳
 ○二月廿八日俳人臯月平砂卒 三田為林
小華 ○二月十四日より下谷正法
 院稻荷并本北十二面親世寺開帳 ○三月十五日より浅草松雲寺齒吹孫院
 如來開帳 ○三月十五日より日向院にて鎌倉永谷貞昌院天満宮法住
 坊本地觀世音開帳 ○青山善光寺弥勒如来開帳 ○浅草報恩寺親
 孝上人遺物を物せしむ ○三月十八日より六月八日迄浅草寺觀世音開
 帳 寛延四年より三年三丁目之地中冥佛と孫開帳
本堂仁王門被損修復あり ○同日より約形堂より下總

東三井も地蔵井開帳○三月より浅草本法寺あり後海岩本実わる
 祖師開帳○三月廿三日南品川大火○月廿五日靈巖島火事○四月
 八日深川辺大火○月十日浅草寺の火出火○四月朔日より湯島田代
 寺十一面観世音立文の開帳○月日より浅草寺町折橋本地十二面観
 世音開帳○同日より浅草日輪寺あり奥明会津西光寺日限地蔵寺
 開帳○月日より下谷五條天社天満宮開帳○四月八日分芝慶宮燈現
 境内より下谷坐米倉山名妙寺十一面観世音開帳○六月十五日より
 湯島社内より小日向若谷谷明照寺地蔵寺聖徳太子不動寺開
 帳○五月より霖雨晴る稀く○六月十六日より大雨降續十七日別て
 大雨より浅草小石川辺出水大川橋柳橋墮る小日向大洗堰石垣崩
 是林田上水切る○信長浅草山火坑火小焼江戸あて○七月六日夕七ツ

是時より雨水の方鳴動一翌七日日形云々一天闇く夜の如く六日の
 夜より雲束筋先灰を降る驟一井本枝積雪の如く八日ふり
 至快晴と成る

浅草山焼出せし雲の以より路り常小積りるが別て強く焼出さる六月廿九日の以より
 望月宿の辺よりなる小畑三雲の如く空一面小雲霞ひ稲光の極あつて思へり
 七月は月より毎日雷の如く山鳴り次々小強く六月夕方より青色の灰降敷中より翌七
 日の朝大雲降る音強く昼更あり俄目廿分より半分位迄の軽石の如き小石降り火出
 形あり七時より灰降出一時時間敷の如く人衆も見え分らぬ内一そ火を燈さるが
 用事あれぬ米俵をひくつもさして火あふり往來せり積るは二時計りて空晴ると見
 又降るのくみ雲火の玉花より暫らく降りて小石降り音強く後子も是夜降るあり
 又雷強く降り安ん中二三にや一落空一向ひく後焼を放ち太鼓を打て雷降るあり八日
 朝は時雲敷の如く火より少し晴れ来も見え一若草辺あり灰八九寸位積りる寄辺一尺位みす
 留屋辺月形音井辺あり一陣の不量り一ふ石あり降るを火不値ひ火石降るも多し松井田
 て三又計り轉井火音極進分松鼻の辺に二二計りの石降り人家を潰し一ち灰ふり
 家を捨て還き遠くのたれて今や金ふりも降り小田井大毎の辺に積るなど出て人る
 掃所鉄炮も遊退く七日夕我妻辺の山より大蛇も出たり又九日己の時利根川の土吾妻川
 水より水水あり成りしが暫時泥水山の如く押る人家形なり中洲八丁河原の辺より樹木家
 登るの死骸流しある夥しく中外の川に焼石お水熱湯の如く上州一國の民も二三日登
 夜途方より信長より上野懸谷辺遠を遠われも五年の石他物もはけ方の難ありて

死するもの九方五子餘人といふ小田井宿の格別の障あり西風強くして退か有く一吹きし多と云り昔天治元年七月あゆみの如きものあり一由中右記ありと云り又元禄十六年十二月あゆみ北山焼くれども六年の如くあゆみありと云り
江戸もても硫黄の香のり川水中川より引往一通一保豆の海辺と云く濁る依て芝浦築地鉄炮の辺あり今も津浪起るとと大に騒動一箇島の男女を七人殺ら以難具と運ひく陸地も居るる九二日あり

○此頃綿麻價貴一○夏より秋迄霜の冷意あり帷子と云る日少一
大に裕衣綿入多と云る日多あり
○七月十日より芝野岩地内少く本所五目自性院延命地蔵尊

○七月晦日古草八代了泉卒
○葛為半田稻荷社修復勅化
○八月十五日亥の

刻月蝕夜夜の食もこれ
○九月十日書家小保壽卒
○同日より龜戸妙

○九月十五日神田明神祭礼の時神主形あより神樂を十番と十一番の男
○同日より龜戸妙
○十月廿八日曉八時小傳馬町を子月よりお火大風あり

大傳馬町通旅籠町田所町若石川町堀江町小細町幸子同邊場町葺屋
町迄本船町小田系町宝町該地町正外敷町焼亡日午刻然る

○十月書家松山丈規卒
○十二月廿日己の刻は浪草を越より
出火本町核烟一飛以豊川通所新花後通了津川六男堀本松守の靈巖寺

○十二月廿二日普六守の坊上守方丈焼失
○秋の角力冬小延と寒中も身終るる今年より始る

天明四年甲辰 正月間

正月三日夜青山麻布辺又火日夜四谷新宿焼亡○舊冬廿七日より二月三日以下のうり彗星坤の方小歌る○閏正月廿三日曉八半時神田被治町二丁目より出火鵜町角横町白磁町堅久二町新石町二丁目塗師町焼亡
○二月初午鳥森稻荷系出練物出象○二月より四月廿一日迄中の々

如名海寺聖徳太子開帳 ○二月小川町三條稻荷の神開帳 ○三月十五日
 より五月五日迄日向院より相州關本最念寺道了権規開帳 ○葛西花文
 村正堂の勢大明神開帳 ○三月廿日弘法大師九百五十年忌 ○川傍平
 弘法大師開帳 ○獲必の獲持院弘法大師遠忌并什物開帳
 ○永代より山城宇治平為院縣社本館如名海報世告開帳 ○平近急福
 あり中山法花壇の奉堂祖師 日法上人 開帳 ○法王寺法王の依後難太
 郡小濱村妙宣寺祖師開帳 ○龜戸天満宮開帳 ○四月より子持谷鬼子
 母神開帳 仙壽院 四月より深川靈雲院の系泉涌の秋迎如來肉身
 佛舍利開帳 ○四月十日茶人清水玄昌卒 下谷竜泉寺 小善寺 ○四月十六日丑下刻
 若菜水道尻より山火廓中焼亡 飯宅向ふ小田向院赤法堂 並木物形為形町あり ○四月廿日高
 芙蓉卒 平二才義刻の上よりあり 戸崎町寺堂渡小善寺
 ○諸國飢饉の度仍れ人多死也

○五月二日萩原宗固卒 八十二才名貞辰百花園と号し法光院の禪士あり鳥丸光榮の如
 門人として和奇と号す其の晩年ありは谷荒木横町ありて卒せり
 四谷本姓 上金我卒 辛丑年名院の林交卒 五月十六日國學若藤田所風卒 五十七才稱若藤
 上金我卒 辛丑年名院の林交卒 五月十六日國學若藤田所風卒 五十七才稱若藤
 ○九月十五日より十月十日迄十位慈願より野島侍より北條為開帳
 ○九月十八日後叡氏十二代迎業卒 辛丑年 十一月より五年の男仙齋より角鏡七孺
 らる ○十月桐長桐芝居櫓を改し時馬櫓と云れ言せり 乙冠袴衣大の衣袋より
 是昔の女形 送風ありといふ 十一日東本願寺奉堂再建棟上 ○十二月六日夜太白星歳
 星を祀る ○一月十一日五車星を祀る ○十二月廿六日夜戌下刻八代海川
 原より山火為山風烈しく大石小路新櫓救奇屋櫓より町併屋下辺八官町
 の辺尾張町より本控所芝居仙齋廣田藩邸の辺北の系橋辺迄鉄炮例祭
 地海を奉祭る南小田系町辺迄乾燒翌廿七日申刻深川町辺より火燒る

正月九日丙午未午一刻より未一刻迄日蝕皆既闇夜の如し

○正月廿二日昼九時陽島天神裏門前牡丹長家より出火西北風烈しく三組町妻衣社神田明神門前兼風閣より旅籠町辺内外神田より通町筋本町通日本橋迄東へ小回京町堀江町小網町堺町葺屋町まで其居兼近辺大焼る所小焼る所も喰所濱町津川へ飛火熊井町相川町大島町辺八幡宮へ有居仲丁辺焼亡翌廿三日曉迄も聖堂神田明神の本社計り焼る

○同廿三日風烈しく午刻西久保大養生の門前より出火赤羽版倉町を焼失寺院の光明寺の先院其外焼亡は未より飛火へて田町海岸迄焼る申中刻迄幅三丁長十五町といふ○同廿四日夜津茶川宿三百軒の餘焼る○同廿七日午刻本所四ツ目より出火釜屋迄焼る○同夜平川河門外出火あり

○二月二日荷田善満の女茶生卒卒年未詳○二月六日午刻乙

小石川蓮華寺前指谷町二丁目より出火乾風強く丸山辺江町本元町

以茶水春日町新焼秋立所迄焼る○回向院へて上総玉子回村称念寺齒吹跡院如來園焼○谷中延命院七面明神焼○二月廿三日相物若根山鳴動あひうら

く廿四日の以地震甚しく同日百度計震ひくと云○三月より護國寺觀世音開焼○三月十五日夜中雪降り桜の花も積る○三月廿二日津瑞瑞諸元祖すずり若狭採死十才才採石を勝刺撃して雀海といふ○早春より四月の半迄

○五月の以より為替く隔日の極ありしが七月十二日より別て大雨降續紀山水のあましく洪水と成まり十三日十四日より半邊小日向物ある切橋邊武家方登陸途人々乳文も水あり小石川辺を流るる折丁戸橋丁家流れ江川

水勢を急ぐ橋の流る由お村田上水掛樋危く大勢の人まを以て橋がむ壊れ樋の上も天程水ありしが十七日十八日以より少く減り有り目白山崩上水樋のせき水乃二月の餘流り富永橋筋遠橋危く和泉橋の板橋右流より十五日より大川を位出あ小橋系の水五尺もあつて小橋大橋皆崩壊

十六日性来るる十七日星形大橋中の石間流矢永代橋古石橋流矢隅田堤より流矢を不
 押切男女は戸へ向けお國橋を渡り途より流矢に形を性来り吉原の床へ木上り雜
 同谷大水を怪人言へは谷牛辺に居る人あり水より一あり水より一あり流矢に除
 石坂土子の崩れおあるおのりおのり官府よりお助をせし流矢を救へられ
 十八日お西馬廣小橋に救小橋と建られ被民を救ゆる十九日より晴天となり廿日より
 水少し雨降るお深川に流矢おある國八を立近西の洪水のことおあるお草紙に登り
 一とてお水より一とて一とて一とて
 夏期のお後流矢お相續おある一とて一とて

○夏より冬おりる法團外僧諸人困窮す○七月中旬江戸中橋一由賣切
 ○流矢の月院門おあるお市といふりの兼藤の根を以割麦の如く割る
 支食とて又葛の如く割るを食料にも糊にも用ふるを言へ官許を
 けく九月の末より左の流矢近も賣弘む○青山持太系に較て橋より口
 涯に権太信於何某とていふ古き碑あり畧してこの石を捨て系といふ層
 應二年乙卯八月九日とありとて此碑を安徳大権現と崇む今年何とて
 ら系諸人多かりとて

天明七年丁未

正月十六日俳人木丹卒 は十九才廣徳年中
赤照院に葬り ○正月十七日昼八時青山より
 出火西南大風権左系較て橋千日谷辺に焚焼○二月南能人秋述嶽雲太
 清の十三回忌の時お身は流矢おあるお深川永代も八幡宮の後お雲お清
 けの身のおお等しき碑を立る お七更寺
天恩孔平文を撰む ○二月八日医師山岡圓南卒
 半余才名正珍林宗俊詩作よ名あり お師光号百花
主人甚おお ○二月廿九日俳人藤原居士卒
 谷中おあるお葬り お藤原居士
主人甚おお
 ○五月屠龍高岩谷流矢寺親吉を以政務奉太徳退治の圖を
 画し額を納む 横二間壁九尺おある一以額お付てその彈刺あり甲冑を外敵史を共し
お由りおおれと古畫を洞をせるおありて人物の活動普通の画匠の由りおおれ
 ○五月あけより米穀の身おある一とて一とて價お高し市中の着おあるお
 おある一とて門戸を閉じ廿日より廿九日近難人米肆酒店に停米穀を移し
 たる家々を打毀し事夥し 以時一人のお大着虎ありとてお家他器物を打てお流矢お死
お危おのことおあるおもお量もてありとて

官府より嚴しく制しあひ町々あてり竹柵を據一教を固嚴重あり一六
 暫時に結わり○五月賊民に救とて金子を揚り六月米大豆下並を以て
 賈しめらる○八月十二日曆学者小沢紫江平 名改教孫多門駒也 浩めさ小葬 ○八月廿日
 書家伊藤長林卒 宋万年号匡山 漢本号小葬 ○八月廿二日谷中感徳寺境内に於て
 赤叡山の鐘を鑄改む月廿八日暮六時始り撞く○九月七日能楽師
 雲中庵蓼太卒 七十六大島氏名陽喬空齋居士 是乃深川要津也小葬 ○九月十二日井の水毒ありとい
 不妖言ひろまる○十月九日曉卯刻に古原南町より出火して廓中妙
 法燒亡花川中連親燒死 後志大橋側深川妙法八幡寺中御留永町を焼あり 之れがりの名店の豆がみどりのひよりわらへる後宅留り
 ○神田の神楽礼十月あ延る再延引く十二月二日小波の豊時が為禱る
 天明八年戊申
 正月元日大聖路○正月廣東人參賣買正停止ありしをゆるりあり

○四月朔日より深川海心より身延山祖師開帳○月十五日より後芝

店 まぐ池上 旅立祖師開帳○四月十一日夜戌刻光物飛ぶ螢の如し

○五月八日儒師大江維翰卒 東師の大江資衡の子 芝天徳寺小葬 ○六月十二日二代目英一蜂卒 名標 号然く居士 後芝満末也小葬

西門の若光 号本山 称秋菘 十日白梅名也小葬 ○七月十六日書家植柳季梁卒 名標 号然く居士 後芝満末也小葬 ○八月廿一日書

家関敬明卒 号本山 称秋菘 十日白梅名也小葬 ○十二月寺院に命りあひ淺間山燒奥州

飢饉に渡り関東出水系於大火燒死溺死あひ禍不罹りしもの為不施縁鬼

と修めしめらる 江戸の本所回向院小松川仲養院より系於大火といつる今年正月晦日洛東 因栗辻より出火して洛中洛外大肉と肉をとりこの大災の身を委曲し

又大典禪師平安菩提の記をりりる

此年間に記事

天明の頃名家△儒家金裁旭山 芝山 北海 雀鳴 瓶山 △詩人 西野 僧
 六如 名慈周 △書家 其寧 東江 親和 改嶺 韓天壽 牛山 △和歌 千蔭

